

最後のドロンピック

5月15日に中松小学校としての最後の「ドロンピック」がおこなわれました。

中松小学校では、「総合的な学習の時間」に、学校そばの水田を地域の方より借り、もち米作りに取り組んでいきます。

田植え前に田をかき混ぜる「代かき」の役割も含め、毎年「ドロンピック」として、体験活動をおこなってきました。最近では、5、6年生のみで実施されていましたが、令和3年3月末をもって中松小学校が閉校となるので今回が最後であるため、全校児童76人が参加しておこなわれました。



校長先生からのコロナウイルスに関する注意をしっかりと聞く子どもたち

前日に、熊本県での新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除された状況でしたが、初めに校長先生から3密(密閉・密集・密接を避ける)についての話があるなど、新型コロナウイルス感染症対策として、細心の注意が払われ競技がおこなわれました。

子どもたちはマスクとゴーグルをきちんと着用し、校長先生や担当の先生の話をしっかり聞いていた様子が見られました。

最初に体慣らしの軽い運動があった後、5、6年生から田んぼに入ってきました。少し冷たい風が吹く曇りの天気でしたが、子どもたちは「わー、



我先にと田んぼに駆け出す子どもたち



大人も子どももみんな楽しみました

冷たい「ひんやりする」と叫びながらも楽しそうに田んぼのなかを走りまわります。

競技は、田んぼに慣れるための「けんけんぽ」から始まりました。低学年の子どもたちは初めての田んぼの感覚に戸惑いながらも、慣れてきたら高学年のお兄さんお姉さんと一緒に楽しむにはしゃいでいました。

次の競技の「コーンリレー」では、子どもたちに交ざり、先生や当日来ていた保護者の方も参加しました。実況の教頭先生からの、「一番楽しんだチームが優勝」との言葉のとおり、子どもも大人も大胆なジャンプで障害の縄を飛び越えていきます。どろだらけになりながらも、マスクの下には笑顔もみられました。

終わった後は、5、6年生が先生からの指示に従って、田んぼの隅々まで注意して肥料を撒きました。最後は、学校に戻って保護者の皆さ

んが用意された瑠璃温泉の温泉水で体を流しました。とても気持ちよさそうでした。

子どもたちからは「休校中(新型コロナウイルス感染症の影響により)だったから、久しぶりに友だちと会えて嬉しかった」「初めてのドロンピックで楽しかったけど、最後になるかもしれないから少し寂しい」といった声が聞かれました。

ドロンピックで使ったこの田んぼでは、これから子どもたちが田植えや稲刈りなどの体験をおこないます。

子どもたちが中松小学校で過ごす残り少ない時間が、新型コロナウイルス感染症の影響でさらに少なくなっています。中松小学校でしか体験できないようなこれらの行事を通して、楽しい思い出をたくさん作って欲しいと願います。



田んぼの隅々まで肥料を撒きます